

# 新年賀謹



多古町長  
菅澤 英毅

**新**年明けましておめでとうございます。

町民の皆様方には、輝かしい二〇二一年の新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年も皆様方のご支援をいただき、町政運営を精力的に進めさせていただきました。

振り返りますと、社会を取り巻く情勢は依然厳しく、アメリカのリーマンショックに端を発した世界同時株安や景気の低迷、新卒学生の就職内定率の低下など、国や地方経済は危機的状況が続いております。

多古町の現状を見ましても、少子高齢化の進行により高齢化率は約30パーセント、人口もこのたびの国勢調査では、前回より1000人ほど少ない約1万6000人程度となる見込みで、税収や地方交付税の減少が懸念されております。

このような時こそ、国はもとより行政と議会が一体となって困難に立ち向かい、町の将来のために全力を傾けていかなければなりません。

これまで学校施設の耐震化や中学校3年生までの医療費助成、全町への光回線網の構築、都市計画道路大谷

九蔵線の整備、空港シャトルバスの運行などに積極的に取り組んでまいりました。多古中央病院においては医師の確保に努め、経営の安定化により地域医療への不安を最小限にとどめることができたことは、誠に喜ばしいかぎりであります。

一方、羽田空港ハブ化発言を契機に、成田空港周辺市町では空港のさらなる容量拡大への動きが高まり、騒音下の皆様にご理解をいただき、年間発着回数30万回への歩みを進めることができました。今後も空港がもたらす地域の発展を適切に享受できるよう、国、県、空港会社等に要請しながら、空港との共生・共栄を図ってまいります。

町の将来の方向性を示す多古町総合計画や都市計画マスタープランについては、町民参加の下、策定作業を進め「住んでみたくなるまちづくり」に邁進しながら、個性あふれる地域づくりを目指します。

今後も「町民に開かれた町政」をモットーに、行政のSRM化と効率化に配慮しつつ、多古町の特徴を積極的に創出すべく努力するとともに、多古台住宅開発の促進や幼保一元化施設の建設、圏央道や町道飯笹・西古内線など道路網の整備促進、スポーツ広場や図書館、公民館など社会教育施設の整備等々を図りながら、町民一人ひとりが誇りと愛着を持ち続けることができるまちづくりに積極的に取り組んでまいります。

結びに、町民の皆様のみならずのご多幸を心からご祈念申し上げます。新春のごあいさつとさせていただきます。

